

Title	ことばによって人が傷つくということはどのように起こるのか：アニメ「クレヨンしんちゃん」の分析から
Author(s)	中川, 佳保
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2020, 2019, p. 69-78
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/77009">https://doi.org/10.18910/77009</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ことばによって人が傷つくということはどのように起こるのか  
—アニメ「クレヨンしんちゃん」の分析から—

中川佳保

## 1. 目的と問題意識

本稿の目的は、ことばによって人が傷つくという出来事が、どのように、どのようなコミュニケーションを経て起こるのかを明らかにすることである。

ことばによって人が傷つくという出来事において、その参加者は、傷つけた加害者と傷ついた被害者という構図のなかに位置づけられる。さらに、誰かが傷ついたことの原因が、参加者個人に帰せられ、それを個人の「心がけ」次第でどうにかできる問題として片づけてしまうような考え方もある。例えば、臨床医である著者がモラル・ハラスメントについて分析したイルゴイエヌ(1999)は、加害者がとる戦略、加害者や被害者の性格、モラル・ハラスメントへの対処法を提示しているが、これらはいずれもモラル・ハラスメントの発生や対処を個人単位での実践に押し込めている。もちろん、実際に被害に遭ってしまったときに個人としていかに対処すべきかを知ることができるという利点はあるのだが、誰かがことばで傷つくことを個人の問題にとどめてしまう見方には再考の余地があるようにおもわれる。

そこで本研究では、参加者を含むコミュニケーション出来事全体・構造を視野に入れ、ことばによって人が傷つくということがどのように起こるのかを明らかにする。それを通じて、本当に個人単位でコントロールできる問題なのかを再考することにつなげたい。

## 2. ことばによって傷つくことに関する先行研究

ことばによって傷つくという現象に関しては、心理学において傷つくという感情(hurt feelings)がどのようなものかを知るための一つのアプローチとして研究が展開されてきた。特に、Vangelisti(1994)が傷つくという感情を引き起こす要因として発話(message)に注目したことに端を発する。Vangelisti(1994)は、質問紙調査を通じて調査協力者が傷ついたことのある発話を収集した。その結果、収集された発話は、その発話がなにを為しているかという観点から、情報伝達、評価、非難、指示、願望の表明、忠告、冗談、脅し、嘘、疑問の10タイプに類型化された。

Vangelisti(1994)およびそれに続く研究(Vangelisti & Crumley 1998; Vangelisti & Young 2000; Vangelisti et al. 2005; McLaren & Solomon 2008 他)では、①聞き手が傷ついた発話のタイプとトピック、②タイプおよびトピックと傷ついた度合いとの関係、③聞き手が感じた話し手の意図、関係の親密さ、関係の種類という変数と、聞き手がどの程度対人的距離をとったかとの関係、④傷ついた際の反応、⑤聞き手が思う傷ついた原因(perceived causes)といったテーマが扱われてきた。また、特定の間人間関係に焦点を置いたものもある(Hareli et al. 2007 など)。

Vangelisti(2016)は、これまでの研究に不足している点として次の三つを挙げている。一つ

目は、誰かが傷ついた実際のやりとり(ongoing, situated hurtful interactions)の分析である。二つ目は、傷つくという出来事に関する社会化の過程の分析である。具体的には、子どもや大人がいかに関係者を傷つけるようになるのか、また、社会的苦痛(social pain)に対して反応するようになるのかを体系的に調査する必要があるとされている。三つ目は、傷つきを生じさせる上でテクノロジーが果たす役割の分析である。

Vangelisti(2016)が指摘する三点は、いずれも、ことばによって誰かが傷つくということが起きたコミュニケーションの要素となるものである。本稿では特に一点目の、誰かが傷ついたやりとりを取り上げる。その分析を通じて、先行研究では扱われてこなかった、ことばによって人が傷つくということが起こる過程を明らかにする。

### 3. 理論的枠組み

本稿では、ことばによって誰かが傷つくということが起きたコミュニケーションを分析する上で、社会記号論系言語人類学の枠組み(小山 2008)を用いる。本稿では特に、コンテキストの前提と創出、詩的機能、対照ペアという概念を援用して、そこで何が起きているのかの記述を試みる。

各概念について説明する前に、前提として、指標性という概念について簡単に説明する。指標性とは、パースの記号論(内田 1986)においてある記号とそれが指示するものの関係の様態に基づいて導かれている、類像記号、指標記号、象徴記号のうち、指標記号が持つ性質のことである。ある記号がそれとなんらかの隣接関係にあるものを指し示す場合、その記号のことを指標記号といい、その記号には指標性があるという。ちなみに、類像記号とは、地図や写真、似顔絵のように、記号とその指示物の間の類像性に基づいて成り立つ記号のことである。また、象徴記号とは、「犬」が「犬」として概念化されているものを指すというように、社会的慣習に基づいて成り立つ記号のことである。ある発話とその発話の生起する言語使用の場に隣接する何か X を指し示すとき、「ある発話は X を指標する」という。

#### 3.1 コンテキストの前提と創出

ある言語使用および記号使用とそのコンテキストの関係を示す概念として、「前提」、「創出」という概念を用いる。あるコミュニケーション出来事は、それに先立って存在するコンテキストを前提的に指標し(指し示し)、新たなコンテキストを帰結として創出的に指標し(指し示し)ながら生起している(榎本 2019)。本稿では、ある言語/記号使用がコンテキストを前提的に指し示すことを「前提」、新たなコンテキストを帰結として創出的に指し示すことを「創出」とよぶ。

#### 3.2 詩的機能

詩的機能とは、Jakobson(1960)が示した 6 機能モデルに含まれるものである。Jakobson(1960)は、コミュニケーション出来事の構成要素としてメッセージ (message)、メ

ッセージの送り手 (addresser)、メッセージの受け手 (addressee)、メッセージが伝達されるための送り手と受け手のつながり (channel)、メッセージの言及対象 (context)、メッセージが解釈されるコード (code) の六つを定め、メッセージにはそれぞれの要素を志向した機能があるとした。詩的機能は、六つの要素のうちメッセージそのものを志向した機能で、「選択の軸 (axis of selection) に見られる等価性 (equivalence) を連結の軸 (axis of combination) に投影する」ものである (同上: 358)。詩的機能に関して重要なのは、音声、語彙、文など様々な単位に見られる形式の反復であり、形式の反復によってその形式を一つのテキストとして浮き立たせ、解釈可能にする。また、詩的機能は、言語形式だけでなく、行為の次元にも現れる (Silverstein 1985)

### 3.3 対照ペア

3.1 でコンテキストの前提と創出について述べたが、これに関連して、あるコミュニケーション出来事が、前提的にあるいは創出的に特定のコンテキストを、その出来事に関連のあるものとして指し示すことをコンテキスト化という。また、コンテキスト化を通じてその出来事が社会・文化的に認識可能な「テキスト」となることをテキスト化という (小山 2008)。

対照ペアとは、対照性を示す二つの要素がペアとしてテキスト化されたものであり (同上)、その例としては「お父さん」と「お母さん」、「先生」と「生徒」、「関東」と「関西」などが挙げられる (榎本 2019)。ペアを成す二つの要素が対照性を示すのは、その二つがペアとなって現れるようなコンテキストにおいてである (小山 2008)。

## 4. 傷の同定

分析に移る前に、だれかが傷ついたということをどのように同定するかを述べておく。本稿では、誰かが傷ついたことを同定する上で、参加者の誰かによる「傷ついた」という発話に依拠する。発話者は傷ついた本人であってもそうでなくてもかまわない。

なぜ「傷ついた」という発話に依拠するのか。本稿では、目に見えない「傷」は、「傷」ということばを使うことによって「傷」として認識可能なものになる (テキスト化される)、と考える。これは、「傷」を認識するためにはかならず「傷」ということばの使用をともなう、あるいは、大げさに言えば、「傷ついた」と言うことによってその人が「傷ついた」ことになる、とも言い換えられる。「(心の) 傷」なるものが先行して存在していてそれを「傷」と描写している、という見方はとらない。

## 5. 事例と分析

### 5.1 事例

本稿では、テレビアニメ『クレヨンしんちゃん』第 1146 話「ボーちゃんの大ピンチ」から収集した以下の談話(1)を分析する。『クレヨンしんちゃん』は、5 歳の幼稚園児・しんのすけを主人公とし、しんのすけの家族や友人たちとの日常を描くアニメである。本稿で分

析する「ボーちゃんの大仕事だゾ」には、しんのすけ、風間くん、マサオくん、ボーちゃん  
の四人が登場する。四人はふたば幼稚園のひまわり組に所属する友人同士である。以下のス  
クリプトでは、S がしんのすけ、K が風間くん、M がマサオくん、B がボーちゃん、J が公  
園にいる女兒を指す(J は 17,18 行目に登場するのみである)。

(1) 『クレヨンしんちゃん』第 1146 話「ボーちゃんの大仕事だゾ」 0:05～3:17

001 ((公園の中を K が一人で歩いている))  
002 K: はあ:, 英語塾のテスト, いつもは 90 点以上なのに,  
003 昨日は 80 点台をとっちゃった. ショック. ママは何て言おうか.  
004 ((鳥の声))  
005 K: [はああ,  
006 [((しゃがんで地面のアリを見つめる))  
007 アリはいいな, テストがなくて.  
008 S: ((走ってくる))  
009 あ,  
010 [お::い, いたいた. 風間くんそこでうんちしてた.  
011 [((振り返って K を指差す))  
012 K: ((こける))  
013 K: [う:::.  
014 [((S の方をにらむ))  
015 はっ  
016 ((K をみている女兒 2 人に視線をやる))  
017 J: [°こんなところで?°  
018 [((歩き去る))  
019 K: hh.  
020 <誰がこんなところでうんちするか:>  
021 S: あっそ.  
022 M: ((サッカーボールをもって駆け寄ってくる))  
023 探したんだよ, 風間くん. ね, サッカーやろ.  
024 K: ((M, S のいない方に体を向けて眉を吊り上げて目をつぶる))  
025 悪いけど, 今サッカーしたい気分じゃないんだ.  
026 S: うんちしたいから?  
027 K: うんちから離れろよ.  
028 S: じゃあおしっこ?  
029 K: 違:う. そんなつまんないことじゃ<ないよ>.  
030 S: 大事なことなのに.  
031 K: hh. 実は今, 悩んでることがあってね:.  
032 S: どんなこと? よかったら話してみれば:?  
033 K: しんのすけには, 多分わかんないと思うけどど  
034 S: [話してみなくちゃわかんないだろ.  
035 [((眉を吊り上げて低めの声で))  
036 K: [hh

037 [( (うつむく) )  
 038 =実はね,  
 039 S: ((目をつぶって腕を組む))  
 040 そっかあ,それは大変だね.  
 041 K: まだ実はねしか言っとらんだろうが.  
 042 M: [1 あっ  
 043 [1 ((画面左上方向を向く))  
 044 K: [2 あっ  
 045 [2 ((Mと同じ方向を向く))  
 046 S: [2 あっ  
 047 [2 ((Mと同じ方向を向く))  
 048 ((マスクを着けたBが一人で歩いている))  
 049 B: ((しゃがんで地面のアリを見つめる))  
 050 アリはいいな,悩みなんかなくて.  
 051 ((K、S、MがBのところに駆け寄る))  
 052 M: ポーちゃん,サッカーやらない?  
 053 S: メンバーがオラとまさおくと風間くんしかいないんだ.  
 054 K: 僕はまだやるって言ってないぞ.  
 055 B: サッカーしたい気分じゃないんだ.  
 056 K: [えっ?  
 057 S: [えっ?  
 058 M: [えっ?  
 059 M: なんかさっき聞いたような.  
 060 S: どうかしたの?  
 061 K: なんでポーちゃんの時は,うんちしたいからって聞かないんだよ.  
 062 S: んも::う,少しはうんちから離れなさい.=  
 063 K: =えっ  
 064 S: さっきからうんちうんちってこの子はもう.  
 065 K: それはお前だろ.  
 066 M: ポーちゃん,なんか悩みがあるなら話してごらんよ.  
 067 B: [うん,  
 068 [( (Mの方に顔を向ける) )  
 069 実は.  
 070 ((立ち上がってマスクを外し、S、K、Mに鼻水が出ていないのを見せる))  
 071 M: [あっ  
 072 S: [あっ  
 073 K: [あっ  
 074 B: 鼻水とまっちゃった.  
 075 K: [1 な,  
 076 M: [1 あ:::  
 077 S: [1 あ:::  
 078 K: [2~~な~~:んだそんなことか::.  
 079 [2 ((右手を後頭部にやる))

080 うっはははははははは。  
 081 もっと重大な問題かと思ったよ:。  
 082 [1よかったねポーちゃん, 鼻水とまって. ¥  
 083 [1((顔の前で右手の手のひらを上に向ける))  
 084 B: [2((目に涙をためる))  
 085 [2うっ, ぶっ,  
 086 [3ぶわ:::  
 087 [3((走り去る))  
 088 M: [4あつ  
 089 S: [4あつ  
 090 K: [4あつ  
 091 M: ポーちゃん.  
 092 S: ああ, ポーちゃん傷ついた。  
 093 [((s, MがKの方に顔を向ける))  
 094 S: [ひどいぞ風間くん。  
 095 M: そうだよ.  
 096 K: え, だって鼻水くらいどうってこと。  
 097 S: わかってないな. ポーちゃんにとって, 鼻水が出ないってことは,  
 098 とんかつにキャベツがつかないくらい大変なことなんだぞ。  
 099 K: そ, そうかな。  
 100 S: カレーに福神漬けがつかないくらい。  
 101 K: もうええわい, 福神漬けがなきゃ, らっきょうがあるだろ.  
 102 S: はあつ。  
 103 K: 考えるなよ。  
 104 M: ポーちゃん, どこ行っちゃったんだろ. ちょっと心配だね。  
 105 S: とにかく, ポーちゃんを探して慰めて, 胸上げしてあげようよ。  
 106 M: まあ, 胸上げはしなくてもいいと思うけど。  
 107 K: [(僕だってなぐさめてほしいのに. 僕の悩みの方が深刻なのに.)  
 108 [((ほっぺをふくらませ, 目を細めて))  
 109 S: じゃあ行こう。  
 110 ((右手の握りこぶしを突き立てる))  
 111 M: うん。  
 112 S: [風間くんは特に力を入れるように。  
 113 [((Kを左手で指差す))  
 114 K: うっ。  
 115 M: そうそう. 風間くんのせいなんだからね.  
 116 K: わ, わかったよ。  
 117 ((s, K, M 公園から走り去る))

このあと、「僕、これからどうやって生きていこう。何を生きがいにして。」とポーちゃんが河川敷で悩んでいるところへ、しんのすけ、風間くん、マサオくんの三人が駆けつける。そして、風間くんの謝罪によって風間くんとポーちゃんは和解し、ポーちゃんの鼻水も出るようになり、「この友情があれば」と二人の悩みは解決される。

## 5.2 分析

上記の事例(1)では K の 78-83 行目の言動によって B が傷ついた(ことになっている)と判断できる。92 行目の S の「ああ,ボーちゃん傷ついた。」という発話から、傷ついたのは B であり、94 行目の S の「ひどいぞ風間くん。」および 95 行目の M の「そうだよ。」という発話から、B を傷つけたのは K であるとされていると考えられる。92 行目の S の発話の前には、84-87 行目で B が泣いて走り去るという行動をとっているが、これは傷ついたときにみられる反応の一つでもあり(Vangelisti & Crumley 1998)、S はこの B の反応から「ボーちゃん傷ついた」と言ったと考えられる。そして、その B の反応は、直前の 78-83 行目の K の言動に対するものである。これは 69、74 行目の B の「実は。」「鼻水止まっちゃった」という悩みの打ち明けに対するものであるが、その言語形式も、笑いや手ぶりといった非言語的記号も、B の鼻水が止まってしまったという悩みを K は深刻に受け止めていないことを示している。以下、事例(1)を詳細に分析する。

### 5.2.1 悩みをもつ K と B

まず、事例(1)では、67 行目までで、K と B が同じ「悩みをもつ者」として立ち上げられる。K については 31 行目の「実は今,悩んでることがあってね:。」という K の発話によって、B については、66 行目の「ボーちゃん,なんか悩みがあるなら話してごらんよ。」という M の発話に対して 67 行目で B が「うん、」と応じることによって、二人が悩みを持っていることが明示される。31 行目および 66 行目以前の K と B の言動をみると、両者は次の三点で類似している。

一点目に、K も B も、一人でいるときの言動が共通している。(1)は K が公園の中を一人で歩いている描写から開始するのだが、その後の K の動きを追うと、しゃがんで地面のアリを見つめ(6 行目)、「アリはいいな,テストがなくて。」という発話をしている(7 行目)。B についても、B も K と同様、公園の中を一人で歩き(48 行目)、しゃがんで地面のアリを見つめ(49 行目)、「アリはいいな,悩みなんかなくて。」と発話している(50 行目)。二点目に、M からのサッカーの誘いに対して K も B も「サッカーしたい気分じゃないんだ」と同じ返事をしている(25、55 行目)。三点目に、K も B も、K は S に、B は M に促されて、悩みを打ち明けることになり、「実は」という言語表現を用いている(31-38 行目、66-69 行目)。

これらは時系列上では K の言動の方が B に先行して起こっているが、B の 55 行目の「サッカーしたい気分じゃないんだ。」という発話に対して起こる M、S、K のやりとりによって、B の言動と K の言動が関連づけられている。まず、59 行目の M の「なんかさっき聞いたような。」という発話は、「さっき」という言語表現によって、25 行目の K の「サッカーしたい気分じゃないんだ」という発話を指標することを通じて、B のセリフが K のセリフの繰り返しであることを意味している。また、その後 60 行目の S の「どうかしたの?」に対する 61 行目の K の「なんでボーちゃんのときはうんちしたいからって聞かないんだよ」という発話では、K が「サッカーしたい気分じゃないんだ」と言ったときの S の「うんちしたいか



ら?』という発話を引用している。ここでも、Kの「サッカーしたい気分じゃないんだ」という発話が前提とされている。

### 5.2.2 悩みが聞かれないKと悩みが聞かれるB

以上のように、KとBはともに〈悩みをもつ者〉として立ち上げられている。しかしその後、それぞれに対するSの反応の違いによって、〈悩みが聞かれない者〉としてのKと〈悩みが聞かれる者〉としてのBという対照ペアを成すことになる。

まず、Kについてみてみよう。25行目でKが「悪いけど、今サッカーしたい気分じゃないんだ。」と言うのに対して、Sは「うんちしたいから?」と返している。さらに、31行目のKの「実は今、悩んでることがあってね。」という発話のあとのやりとりをみても、SがKの悩みを引き出そうとするのに対して(32、34行目)、Kは「実はね、」と悩みを話そうとするものの(38行目)、Sに「そっかあ、それは大変だね」(40行目)と遮られ、結局悩みが聞かれないままに終わっている。一方、Bについてみてみると、Bが55行目で「サッカーしたい気分じゃないんだ。」と言うのに対して、Sは「どうかしたの?」と返している。その後、66行目でMが「ポーちゃん、なんか悩みがあるなら話してごらんよ。」と促し、Bが69行目で「実は、」と話し始めた後も、Bの悩みの告白は遮られることなく聞かれている。

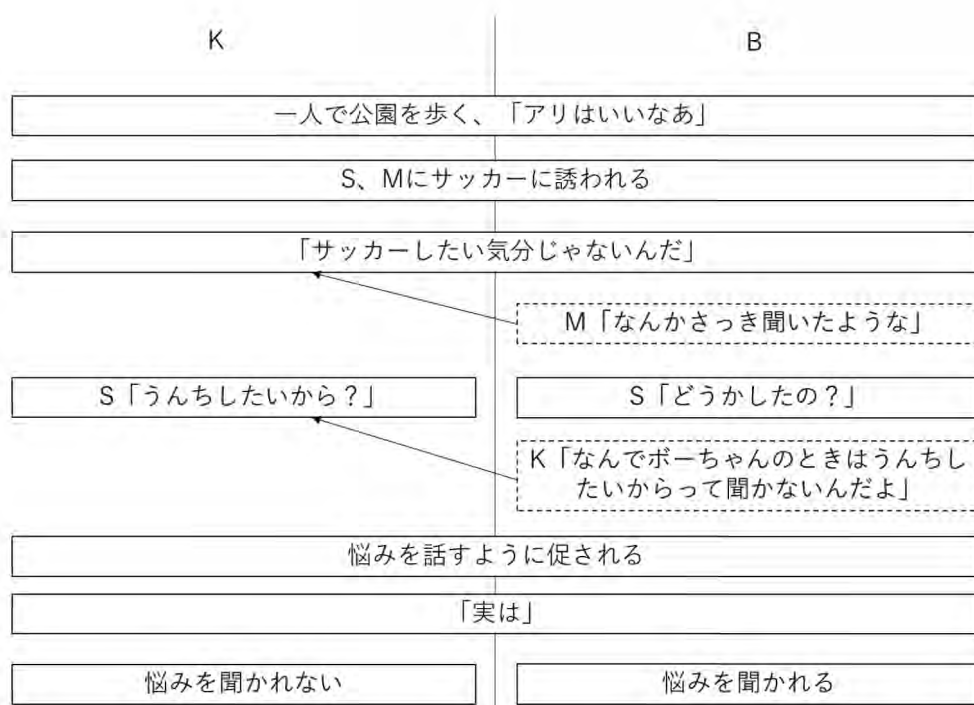


図1 KとBの類似した言動の繰り返しとそれに対するSやMの反応の対照

5.2.1 からの内容をまとめると、上記の図1の通りになる。図1では、上から下に向かって時間が経過する。KとBに共通する部分はKの領域とBの領域にまたがる枠に、対を成

す部分は分離した枠に記されている。また、点線の枠には K のときに生じた発話を指標するものを記しており、指標関係にあるものは矢印で結ばれている。つまり、ここまでみたやりとりは、類似した言動の繰り返しという詩的機能や対照ペアの生成を通じて、K と B をともに悩みを持つ者として並置しながら、かつ、悩みを聞かれない者と聞かれる者という対照ペアとして立ち上げるものになっているのである。

### 5.2.3 K と B の悩みの深刻さの比較

ここまで、B と同様 K も悩みを持っていること、そして、それにもかかわらず、K は悩みが聞かれず B は悩みが聞かれるという対照的な反応をされていることをみてきた。このような B との差に対して、K は不満を持っており、B の悩みは大したものではないと思っている。

K が不満を持っていることは、61 行目の K の「なんでポーちゃんの時は、うんちしたいからって聞かないんだよ。」という発話によって指標されている。また、後者については、94,95 行目で S と M に「ひどいぞ風間くん。」「そうだよ。」と言われたあとの、K の「え、だって鼻水くらいどうってこと。」という発話に現れている。(107 行目では、K の「僕の悩みの方が深刻なのに。」という発話によって、K の悩みの方が B の悩みよりも深刻だとさえ思っていることが指し示されている。)

5.2.1 からの内容を踏まえると、B の鼻水が止まったという悩みの打ち明けに対する K の 78-83 行目の反応は、単に B の悩みを深刻に受け止めずに笑い飛ばしたものというわけではなく、K も B と同様悩みを持っているにもかかわらず B とは対照的に悩みが聞かれず、それに対して不満を募らせてきたうえでなされた言動であるといえる。

### 5.2.4 悩みに対する反応の反復

最後に、詩的機能という観点から 78-83 行目の K の反応を行為のレベルでみると、K の悩みに対する S の反応を、K が B の悩みに対して反復したとみなすことができる。まず、K の悩みに対する S の反応を確認しよう。31 行目で K が「実は今、悩んでることがあってね」と言ったあとに S は「どんなこと?よかったら話してみれば:?'と促すのだが、「実はね、」と K が悩みを告白しようとする、S は「そっかあ、それは大変だね」と即座に返して K の語りを遮っている。このような形で S が K の悩みを深刻に受け止めなかったのと同様に、78-83 行目では、K が B の悩みを深刻に受け止めないという、悩みに対する反応の反復がおきているのである。

このことから、「K は傷ついていなかったのか?」という疑問が浮かび上がる。K も B も自分の悩みを深刻に受け止められなかったのは同じであるにもかかわらず、B は傷つき、K は傷つかなかった(作品の解釈としては、むしろ B よりも K の方が傷ついていたという説明も可能である)。この問題については今後の課題としたい。

## 6. 考察

最後に、本稿の問題意識に立ち返って、5.で分析した事例(1)を見直してみたい。(1)において、SとMはKのことを、Bを傷つけた者として非難している(94,95行目)。これを踏まえると、Bが傷ついたという出来事において、Kは加害者、Bは被害者、SとMは傍観者というものになるだろう。しかし、5.で分析した通り、Bと同様悩みを持っているにもかかわらず悩みを聞かれなかったことが、Bを傷つけた78-83行目のKの言動につながっているとすれば、Bの傷つきには、Kの悩みを聞かなかったSやMも加担していることになる。すなわち、SとMは、Bを傷つけたとしてKを非難していながら、実は単なる傍観者ではなく、むしろBを傷つけたことに責任を負っている可能性があるのだ。このことから、ことばによって人が傷つくという出来事への参与の在り方の多様性が示唆される。

## 参考文献

- Jakobson, R. (1960). Closing statement: Linguistics and poetics. In T. Sebeok (Ed.), *Style in language* (pp.350-377). Cambridge: Massachusetts Institute of Technology Press.
- Hareli, S., Karnieli-Miller, O., Hermoni, D., & Eidelman, S. (2007). Factors in the doctor-patient relationship that accentuate physicians' hurt feelings when patients terminate the relationship with them. *Patient Education and Counseling*, 67, 169-175.
- McLaren, R. M., & Solomon, D. H. (2008). Appraisals and distancing responses to hurtful messages. *Communication Research*, 35, 339-357.
- Silverstein, M. (1985). On the pragmatic "poetry" of prose: Parallelism, repetition, and cohesive structure in the time course of dyadic conversation. In D. Schiffrin (Ed.), *Meaning, form, and use in context: Linguistic applications* (pp. 181-199). Washington, DC: Georgetown University Press.
- Vangelisti, L. A. (1994). Messages that hurt. In W. R. Cupach & B. H. Spitzberg (Eds.), *The dark side of interpersonal communication* (1st ed.) (pp. 53-82). New Jersey; London: Lawrence Erlbaum.
- Vangelisti, L. A. (2001). Making sense of hurtful interactions in close relationships: When hurt feelings create distance. In V. L. Manusov & J. H. Harvey (Eds.), *Attribution, Communication Behavior, and Close Relationships* (pp. 38-58). New York: Cambridge University Press.
- Vangelisti, L. A. (2016). Hurtful communication. In C. R. Berger & M. E. Roloff (Eds.), *International encyclopedia of interpersonal communication*. New York: Wiley Blackwell.
- Vangelisti, L. A., & Crumley, P. L. (1998). Reactions to messages that hurt: The influence of relational contexts. *Communications Monographs*, 65(3), 173-196.
- Vangelisti, L. A., & Young, S. L. (2000). When words hurt: The effects of perceived intentionality on interpersonal relationships. *Journal of Social and Personal Relationships*, 17, 393-424.
- Vangelisti, L. A., Young, S. L., Carpenter, K., & Alexander, A. L. (2005). Why does it hurt?: The perceived causes of hurt feelings. *Communication Research*, 32, 443-477.
- 内田種臣 (1986). 『パース著作集2 記号学』 勁草書房.
- 榎本剛士 (2019). 『学校英語教育のコミュニケーション論—「教室で英語を学ぶ」ことへの教育言語人類学試験』 大阪大学出版会.
- 小山亘 (2008). 『記号の系譜—社会記号論系言語人類学の射程』 三元社.

## スクリプト記号

[ 音、行為の重なり (()) 非言語行為 \_ 音の強調 . 語尾の音調の下降  
, 音が少し上がって弾みがついていて続きがあることを予測させる : 音の引き伸ばし  
? 語尾の音が上がっている () 調音されていない「心」の声  
; 語尾の音が疑問符をつけるほどには上がっていないが多少上がっている  
¥¥ 笑いながらの発話 ° ° 声が小さい発話